

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 修文



■ 本市も 10 歳になりました

先月 22 日、本市も誕生 10 周年を迎えました。この 10 年間、長かったようで、過ぎてしまえば短かったような気もします。

この 10 年間の本市の歩みを振り返ってみますと、合併当初は、極めて厳しい財政状況の中、職員数の削減による人件費の抑制に努め、平成 17 年度からの 10 年間で約 250 人、全職員の約 4 分の 1 を削減するとともに、合併した翌年から市長等の特別職をはじめ、職員や市議会議員に加え、審議会などの委員の給料や報酬をカットし、さらには各種市民団体への運営補助金を減額するなど、全ての市民のみなさんのご協力により、財政再建団体への転落の危機を乗り越えることができました。

一方、私は、政治信条として「公平・公正」を大切に、「市民参加による市民本位のまちづくり」を推進し、常に市民の声に耳を傾け、開かれた行政運営に努めてきました。

こうして、本市は行財政的に少しずつ安定を取り戻し、「ふるさと^{つち}の春まであと一歩」のところまで、ようやくたどり着くことができたのではないかと考えています。

耳を澄ませば、ふるさと再生に向けた^{つち}槌音が確かに聞こえてきます。市民憲章にもありますように、市民が自ら考え、汗を流し、そして、このまちを愛して努力した成果が、今少しずつ着実に現れてきているものと思います。

本市は、平成 19 年 3 月に市民憲章を制定し、

平成 20 年に総合計画と都市計画マスタープランを策定しました。いずれも市民のみなさんのご意見を十分に反映して練り上げたものです。

さらに、ハード面では、合併特例債を活用して、平成 24 年度は厚陽小中学校の整備、平成 25 年度は山陽消防署の新設、平成 26 年度には市民病院とごみ処理施設などの建設に取り組んできました。

現在、厚狭地区の行政複合施設が建設中です。埴生地区の行政施設の再編整備についても、地域のみなさんの協議が進行中です。

その他、国民文化祭や国体も成功裡に開催することができましたし、市民まつりの実施などを通して、市民の一体感の醸成や躍動感あふれるまちづくりを、一歩も二歩も前進させることができましたと考えています。

平成 22 年 7 月 15 日、あの厚狭川の大水害も、防災の重要性を改めて私たちの脳裏に刻み込んでくれました。

山陽小野田市が誕生して 10 年が経過し、すでに、また次の 10 年が始まっています。これからも、これまで同様に市民と行政が力を合わせ、総力を挙げて「活力ある住み良さ創造都市」の実現を加速させたいと考えています。

どうか市民のみなさんにとって意義ある節目となりますことを願って、本市誕生 10 周年を記念してのごあいさつといたします。